

事業所における自己評価結果(公表)

【放課後等デイサービス】

公表:令和6年1月19日

事業所名: 放課後等デイサービスマーガレット

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・基準にもとづいている。医療的ケア児は危険がないように児童との間隔を十分に取るようにしている。	設備基準に基づきながらスペースを設けている。活動によって室内のスペースを広く使用できるように折りたたみ式の長机を使用するなどしている。今後も活動しやすい環境づくりを目指していくとともに、室内での怪我がないよう気を配っている。	
	2 職員の配置数は適切であるか	○				看護師をはじめ、保育士、作業療法士や理学療法士、介護福祉士、社会福祉士などの多職種が在籍している。今後も取得できる職員加配加算など必要な加算を取得し現状維持していきたい。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			・階段、トイレ、玄関に手すりを設置している。 ・手すりなどの設置。 ・手すりや踏み台など。	一般住居を借りており一部段差があるため、歩行不安定な児童に対して介助している。利用児童の障害の状態や身体の成長発達に応じて検討を行っている。	
業務改善	4 業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか	○				定期的にカンファレンス時に職員間で話し合いの場を設けており、今後も職員全体が参加できるようにしていく。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			毎年9月～10月頃、アンケート調査を実施している。依頼時に前年度分を、公開時にも結果内容を、全体にお知らせしている。	ガイドラインに沿ったアンケートを活用し、職員間で、その評価の改善策の話し合いを設けており、今後も業務改善につなげていく。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○					今後も保護者の方からの評価をもらい、事業所がよりよくなるよう業務改善に努めていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			・行事など第三者への呼びかけ意見等を買っている。 ・月1回の子ども食堂にて地域住民との交流を図っている。	子ども食堂や避難訓練など地域の方の参加をもらい、どうだったか話を伺う機会がある。苦情の第三者委員は設置しているが、外部評価については今後も検討していく。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			・定期的に研修に参加している。	シフト調整し、勤務として研修参加を継続できるように行っていく。また、参加職員以外も、研修報告書や後日配信の閲覧等をもとに知識の共有を図っていく。また、ZOOM等の研修に参加出来るようにしている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			・アセスメント後に保護者から出たニーズや課題など話し合い、支援内容を組み取り入れられるよう努めている。	アセスメントツールの活用や、担当者会議など関連事業所との情報交換をしながら、多面的に計画を作成していく。	
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			・アセスメントツール活用している。	今後も継続して適切な支援を行えるように、標準化された現在使用しているアセスメントツールを使用し、状況確認等支援に活かしていく。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			・活動に応じて話し合いを行っている。	活動グループ(保育士、機能訓練士)を中心に計画を立案後全職員で内容を検討した上で実施している。今後も子どもたちののびのび、楽しく活動できるよう支援していく	
適切な 支援の 提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			・利用児童が楽しめるよう職員間で話し合い、工夫している。	都市農業センターでの畑づくりやふれあい館での行事参加に加え、昨年子ども食堂も開始し地域との交流も増えてきている。今後も子どもたちが楽しめる行事を模索していきたい。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			・長期休み、土曜日など利用児童に合わせた支援をしている。	今後も子どもたちの状態に合わせた課題やスケジュールを設定して支援していきたい。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○				児童の個々を捉えた関わりができるように、スタッフで毎月のカンファレンスと必要時行う情報共有を行いながら、個別活動と集団活動を行っている。	
	15 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			・ミーティングを行いケアについて話し合っている。 ・子どもの支援担当を全体で話し合っている。 ・ミーティング時間を設けている。	怪我なく安心して活動に参加できるように、職員間で話し合いの時間を重要視している。今後も子どもの安全面を考慮するため、職員間でミーティングの機会の継続して行っていく。	
	16 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか	○			・反省会を行っている。 ・ミーティング時間を設けている。 ・記録の残し。その日勤務していない職員も共有できるようにしている。 ・申し送りを行い、スタッフ内の連絡ノートを作成している。	毎日、職員間で振り返りを行い、問題に対し、対応策を検討し、早期に対応できるよう心がけている。またその内容を職員間の連絡ノートに記録に残し、後日でも職員が情報収集できるようにしている。今後も日々状況に応じて変わる児童への支援が適切に行えるよう努めている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			・デロボを利用している。	業務支援ツール(デロボ)を使用開始後、その日の記録内容を職員全員でチェックしている。今後も適切な支援ができるよう丁寧な記録の記載ができるよう心がけるとともに、個別支援計画にも反映し一環した支援ができるよう努めていきたい。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○				定期的に保護者と日程を合わせて面談し、モニタリングを行っている。その後職員間計画の見直しを行っている。相談支援員とも連携を深め、情報共有に努めていきたい。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○				日々の日常生活動作の機能訓練に加え、創作活動や余暇活動など、児童の日々の状態を見ながら本人の取り組みむべきことを考え支援につなげていきたい。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	○				サービス担当者会議には主として児童発達管理責任者やその研修を受けた職員が出席できるようにシフト調整や場所の提供を行い参加している。今後も利用する子どもに適切な個別支援計画に反映できるよう取り組んでいく。	
関係機関や 保護者との 連携関係	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			・通報等で情報収集している ・施設訪問時情報交換で来た ・学校迎えの際にも、担任の先生と情報共有している。	特別支援学校では送迎時など担任の先生から申し送りがあり、密な情報交換を行い、必要時長期休暇中に施設訪問を受け情報交換や評価を行うことができた。今後も学校や事業所それぞれ様の様子を知り、その児童の理解を深めていくよう努力していきたい。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			・主治医やかかりつけ等、保護者を通して連絡共有している。	保護者を通じて、内服や医療的ケア内容、緊急時の連絡方法などの情報収集を行うことができた。また吸引や注入などの医療的ケアを適切に行えるよう、チェックシートを使用し支援することが出来た。今後も定期的に保護者との情報共有し、日々の体調などの把握に努めていきたい。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・就学前の情報など、保護者や相談事業所やセンター等を通して行っている。	継続的な支援ができるように、相談支援員や保護者を通して、就学前に利用していた保育所、児童発達支援事業所との連携を図っていく。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○				実習の頃から送迎時にその事業所を訪問し、子どもの状況の確認や情報共有を行うことができた。卒業後も継続した支援が行えるよう連携を図っていく	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○				現在、連携する機会がほぼなく、機会があれば積極的に利用していきたい。	
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			・子ども食堂やレクリエーションを通して交流出来る ・福祉施設の利用で他児童との交流が出来ている	一昨年から子ども食堂を始めたことで、レクリエーション活動を通じてコミュニケーションを図る機会が増えてきている。今後もこの活動を通して、交流の機会を広めていきたい。又コロナ禍も安定してきている福祉施設の利用で交流の機会も増えてきている。今後も継続支援できるように計画立案、実施していく	
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○				年1回開催される研修には必ず参加できるようにしていきたい。機会があれば参加していきたい。	
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・デロボや送迎時に行っている。 ・デロボの活用。	業務支援ツール(デロボ)を使用し、写真と文章で保護者に利用時の様子がわかるようになった。また送迎時にも顔を合わせ、関係づくりを大切にしていきたい。	
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか	○			・ペアレントトレーニング研修へ参加し学んでいる。	ペアレントトレーニングの研修を受けた職員を中心に、保護者への支援につなげていきたい。	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○				契約前に、必ず保護者との面談、児童の体験を行い、事業所を知ってもらった上で利用開始となっている。運営規程や利用者負担等については、契約時に担当が保護者に文書で説明し、事業所と保護者で1部ずつサインしたものを保管している。法改正による利用者負担額の変更等があった場合は、その都度報告できるようにしていきたい。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○				連絡帳や電子ツール、電話、来所等、保護者にあった方法を考え、適切に対応している。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・保護者会を今年度から再開。又、子ども食堂時に保護者同士で話し合える場を設けている。 ・年に1回、保護者会を設けている。	今年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行されたことをきっかけに、1回保護者会を開催することができた。医療的ケア児の利用もあり、感染症の状態を見ながら、保護者会を通して、保護者同士のつながりを広げていきたい。また毎月開催している子ども食堂に参加してもらい、保護者同士のつながりの場となるよう努めていきたい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・LINEやデロボ等を活用しながら体制を整えている。 ・苦情アンケートBOXを設置し、電話やデロボ等で対応している。	苦情相談の研修を受けた職員が受付担当となり責任者に報告している。事業所に案内の掲示を行っている。マニュアルに沿って、適切に対処できるよう掛けていきたい。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・デロボやLINEで情報発信を行っている。 ・長期休みの行事など情報発信している。	長期休暇においては事前のスケジュールを保護者の方に案内できるよう掛けている。業務支援ツールデロボでも活動内容予定がわかるようになっている。
	35 個人情報に十分注意しているか	○				契約時に保護者に個人情報の説明を行い、確認と同意を得ている。情報には管理者が施錠管理を行っている。写真などの外部への提出時には、その都度保護者の方に確認を行うなど気を付けている。
	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				子どもに伝わりやすい方法については、保護者から直接伺い、職員が共通して取り始めるよう配慮している。
非常時等の対応	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			・子ども食堂で行っている。 ・毎年避難訓練、防犯訓練を実施している。	・毎年明和分道隊の協力を得て避難訓練を行っており近所の方にもお知らせをしている。また毎月1回開催している子ども食堂を継続して行くことで地域との交流の機会になれるよう努めていきたい。
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			・マニュアルを作成し、事業所で周知している。	保護者の方には契約時や、保護者面談などで未所した際、マニュアルの案内を行っている。来年度の業務継続計画実施に向けて、職員や保護者への周知を図ってきたい。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			・長期休みなど毎年訓練を行っている。 ・防災、防犯訓練を年1回行っている。	非常災害に備えての訓練をしているが、今後起こりえる様々な状況に対しての訓練など工夫を今後もしながら取り組んでいきたい。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			・虐待防止研修への参加。	年1回開催される外部の研修に職員が参加継続できるようにし、マニュアルの見直し、職員が共通した認識のもと支援ができるよう心がけていきたい。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			・マニュアルに添って行っている。	身体拘束の必要性については、委員会で状況を十分に話し合った後、また子どもや保護者と十分に話し合った上で、マニュアルに沿って適切に対応している。身体拘束を行う際は、記録に記載し、毎月見直しや必要性の有無を行っている。今後も適切に対応していきたい。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			・契約時にアレルギーなど確認している。	利用開始前に、看護師が保護者に聞き取りを行っており、そこで必ず食物アレルギーの確認を取り、職員全員が把握している。おやつ提供時やお弁当購入時に職員が確認している。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			・話し合いを設けている。(ノートへの記載)	職員ミーティングや終礼時に、ヒヤリハットになりそうな状況を報告し情報を共有できている。一連をファイル化できるよう考えていきたい。